

令和3年12月15日

砺波医師会誌

杏和だより

第215号

◇◇◇ 目 次 ◇◇◇

〔時 評〕	・コロナ禍での衆議院議員総選挙を終えて	藤井 正則	2
〔活動報告〕			3
〔オリンピック〕	・東京2020メディカルボランティアに行ってきました！ ～「United by emotion」を感じながら～	山田 泰士	5
〔散 居 村〕	・「指紋認証」	豊田 葉子	6
	・「地球温暖化」	仲村 洋一	7
	・「サッカー観戦」	那須 渉	8
	・不要不急がわからない	乗杉 理	9
	・はじめての海釣り	濱田 秀雄	11
	・喰らいつけ。富山グラウジーズ！	早川 哲雄	12
	・新型コロナ禍の脳筋エクセサイズ	比嘉 敏明	13
	・「新型コロナウイルス感染第5波収束か？」	東出 慎治	14
	・砺波のへき地医療	深谷 良	15
	・父を亡くして	福井 靖人	16
〔新入会員紹介〕		市立砺波総合病院 佐藤健太郎	17
〔編集後記〕		津田 博	18

発行所 砺波市幸町6番4号

公益社団法人 砺波医師会

発行人 砺波医師会長 藤井 正 則

コロナ禍での衆議院議員総選挙を終えて

砺波医師会

会長 藤 井 正 則

令和初の衆議院議員総選挙が10月31日行われました。新型コロナウイルスの新規感染者数が急減しつつある中で、今後の日本の動向を占う重要な局面で行われた政権選択の総選挙です。結果は公示前勢力276議員から議員数が減少したとはいえ、現政権与党である自民党が261議員と絶対的安定多数を獲得しました。コロナ禍という未曾有の大災害を乗り越りつつある現政権与党に対して有権者は評価を下し、且つ新たな成長に向けた期待感の現れであると思います。

今回の総選挙では、自公連立政権は議席数を減らすと予測されていました。菅政権末期に行われた地方選や補選で野党は勝利していた事より、立憲民主党執行部は今回の衆議院総選挙も乗り切れると踏んでいた節があります。国会議員は国会で建設的な意見を述べ、審議し採択する事を求められています。しかし立憲民主党は議員立法が可能な議員数を有しているにもかかわらず、一切封印し「モリカケ・サクラ」を連呼し政権批判に明け暮れていました。この総選挙公示以降、北朝鮮や中国は新型ミサイルの試射を相次いで行い、更に中露の艦隊が津軽海峡そして大隅海峡を通過し日本列島をほぼ一周しています。日本を代表する旅情演歌「津軽海峡冬景色」に酔いしれる暇はありません。手も足も出ない（出せない？）日本政府を嘲笑うかの様な大胆さです。経済もコロナも安全保障も待ったなしの中で、左翼的なマスコミの扇動報道があったにもかかわらず国民は冷静に判断したと思います。

公明党票頼りの当落線上にいる自民党系候補者は50～60名とされていますが、自民党だけで単独過半数を得る事が出来ました。公明党の影響力を最小限にとどめ、且つ抑え込めるかは今後の課題です。そして左翼に向かいすぎた立憲民主党は、国民にNOを突き付けられました。維新の会、国民民主党の躍進は、健全野党に対する期待の現れですが、一方で与野党問わず大物議員が落選し、世代交代の兆しが見えました。今回大躍進した維新の会は、今のところ先行投資の意味合いが強い印象です。将来的に野党第一党を成しえるかは、これからの国会活動に掛かっています。

国民健康保険法下での国民皆保険制度がある以上、法に従った医療を行う必要があります。時代を見据えた医療を確実に実施するためにも、我々医療人が政府中枢に対し助言、提案する事が最も大切です。医療関連団体からの候補者乱立により票が分散し、医師会推薦候補の上位当選は、かなり厳しい状況にあります。今や18歳以上なら高校3年生でも投票出来る時代です。3年毎に改選される参議院選挙は順当なら2022年夏に実施されますが、医師会推薦候補の上位当選を夢見ながら、清き一票を投じたいと思う今日この頃です。

活動報告

(令和3年7月～令和3年11月まで)

令和3年7月

- 2日 2021年度富山県医師連盟執行委員会
- 6日 富山県医師国民健康保険組合第153回臨時組合会
- 12日 第5回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 14日 砺波市糖尿病対策地域連携連絡会
- 15日 砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
- 27日 学術講演会
「用法用量を守って正しくお使いください。～ARNIの場合」
市立砺波総合病院 循環器内科 医長 黒川 佳祐
「使用経験からの考察～早期介入によるARNIの活かし方～」
群馬大学医学部附属病院 循環器内科 病院講師 高間 典明
- 28日 胃内視鏡読影委員会
- 29日 砺波市健康づくり推進協議会
- 30日 胃内視鏡読影委員会

令和3年8月

- 3日 令和3年度砺波市歯科保健推進協議会
- 5日 砺波医療圏内新型コロナ患者対応会議
- 10日 第6回理事会

令和3年9月

- 2日 胃内視鏡読影委員会
- 6日 特定健診・がん検診委員会（県医）
- 13日 第7回理事会
- 15日 在宅医療支援講座
- 16日 砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
- 27日 令和3年度第2回広報委員会
- 28日 胃内視鏡読影委員会

- 28 日 学術講演会
「パーキンソン病の基礎から臨床まで」
金沢大学附属病院 脳神経内科学 講師 坂井 健二

令和3年10月

- 4 日 学術・生涯教育委員会（県医）
7 日 第57回砺波准看護学院戴帽式
在宅医療介護支援巡回講座
11 日 第8回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
14 日 在宅医療支援講座
18 日 胃内視鏡検診に係る打合せ会
20 日 社会保険医療担当者の新規個別指導
26 日 在宅医療介護支援巡回講座
学術講演会
「腎性貧血 最新の話題」
金沢大学附属病院 先進医療開発センター 特任准教授 遠山 直志
27 日 胃内視鏡読影委員会
28 日 胃内視鏡読影委員会

令和3年11月

- 4 日 県・郡市医師会協議会
8 日 第9回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
9 日 在宅医療介護支援巡回講座
11 日 在宅医療介護支援巡回講座
15 日 第204回富山県医師会臨時代議員会
16 日 学術講演会
「逆流性食道炎治療のニューノーマル：診療ガイドライン2021とボノプラザン」
大阪医科薬科大学 第二内科 教授 樋口 和秀
18 日 砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
25 日 在宅医療介護支援巡回講座
30 日 胃内視鏡読影委員会

東京2020メディカルボランティアに行ってきました！ ～「United by emotion」を感じながら～

市立砺波総合病院 整形外科

山 田 泰 士

「オリンピックを実際に見てみたい。」という「emotion」。今年4月末、日本スポーツ協会から、メディカルボランティア募集のメールが届いた。マスコミが取り上げ、ネット上では「医療崩壊をさせているのはお前たちだ」「そんな暇あったらワクチン接種をしろ」など、当時の社会に対する不満の声を書き込まれた。まさに、「emotion」。

東京に入った7月28日には、東京の新規感染者数は3000人を超えていた。羽田空港に着くと人はまばらで、モノレールはガラガラだった。東京の景色が、コロナウイルスの靄（もや）がかかっているように見えた「emotion」。

私の外来に来ていたホッケー選手が、日本代表候補だったので、ホッケー競技のチケットを購入してあった。たまたま組織委員会から、ホッケー競技の救護を指示され、運命を感じた。会場に入り、目に飛び込んできた真っ青なピッチは衝撃的で、新型コロナの不安はなくなった「emotion」。

勤務時間は、7月28日～31日までの15:30～23:45で、17:00からミーティングと救護のシミュレーションが行われて、18:30から試合が始まった。ピッチ横で見るプレーは迫力がある。選手が倒れるたびに立ち上がるのだが、各国のチームドクターがピッチに入り、そしてIOC（国際オリンピック協会）ドクターが駆けつける。顔面にスティックがあたり、大きな裂創となった選手もいたが、チームドクターが処置された。救護室は、届けがされており、医療行為可能で、麻薬を含むさまざまな薬が準備されていた。直接救護室に来られたドイツのカメラマンの擦過創、ドイツの審判のハムストリングの肉ばなれの対応をした。それだけのために？と思われたなら、それも一つの「emotion」。

「感動で、私たちは一つになる」東京2020のモットーである「United by Emotion」という言葉に込められた思いとされる。新型コロナウイルスによって、開催にさえ賛否が分かれ、分断されそうな社会の中で開催された東京五輪、感動で一つになる『United by emotion』を感じながら。

「指紋認証」

とよだ眼科クリニック

豊田 葉子

数か月前に iPhone を購入し、さっそく指紋認証を登録しようとしたけど読み取れない。どの指もダメ。1 週間ほどして運よく 2 本の指が登録できた、と思ったら、翌日には認証されず。ほかの指もすべて登録できず、指紋認証システムはたったの一日しか有効でなかったため、あきらめた。それで 4 桁で登録していたパスコードを 6 桁にした。ところがさっそく忘れてしまって、どうしよう、携帯が使えなくなった！！さあ、たいへん。思いつく数字を何度も試しても駄目。泣く泣くアップルのサポートセンターに電話して、2 時間以上かけてようやく解決。とほほ。(担当者 3 人、皆、親切で感謝！) 我が子からはあきれられ、4 桁で登録した。指紋認証はとっくにあきらめた。スワイプ、タップ、ドラッグ、ピンチ、フリック、どれもわたしのカサカサの指紋が薄れた指先では難しい。カメラや電話をすぐに起動できない。写真のシャッターチャンスが難しい。誤字脱字が多い。間違い電話をしてしまう。電話にすぐ対応できない。コンビニレジでのタブレット決済は迷惑だからやめておく。情けない携帯事情である。モニターから飛び出した立体画像を指で操作するノンタッチパネルが普及すれば、ウイルス感染対策にもなるだろうし、携帯電話にもうまく活用されないかな。



「地球温暖化」

仲 村 洋 一

生命科学で有名な中村桂子さんは現在はゲノムを基本に生きものの歴史と関係を読み解く新しい知「生命誌」を創出され、それは持続する「生命」の歴史であり「物語」であるという。最近の先生の「^な生る 宮沢賢治で生命誌を読む」の中の「グスコブドリの伝記」で一休みしTVを見ていると、真鍋淑郎氏のノーベル物理学賞受賞の話を報道しました。氏は1967年、二酸化炭素の濃度が2倍になれば、地表付近の温度が2度以上上がることをコンピューターを駆使して論文を発表されました。これで温暖化の予測法が開発されたようです。

「グスコブドリの伝記」では、イーハトーブにいるブドリガクーボ大博士に会いに行き、求めているものがはっきり見えてきたようです。紹介されて、ペンネン技師の働いているイーハトーブ火山局へ行きました。数年後また東北に寒い夏がきそうになってきたとき、考えぬいた結果、クーボ大博士に「先生、気層のなかに炭酸ガスが増えてくれば暖かくなるのですか」「それはなるだろう。地球ができてからいままでの気温は、大抵空気中の炭酸ガスの量でまっていたと言われる位だからね」そこでブドリの考えぬいた結果、島に一人残りカルボナード火山を噴火させて、冷夏を避けることができたのでした。

これは決して科学を称える話ではないし、美しい犠牲物語でもありません。自然は人間が思うままに操作できるものではないのですが。ここには科学をどうとらえるかという問いがあり、私たちは自然とどう向き合ったらよいかというまさに今、私が生命誌で問うている複雑で、まだ答えが得られていない問いがあります。新型コロナウイルスのパンデミックに出合い、賢治のころ以上に人間が関与している深刻な気候変動に直面している今こそ、賢治以上に真剣に考えなければなりません。と中村先生は言っています。私も同感しました。



「サッカー観戦」

なす整形外科クリニック

那 須 渉

コロナ禍でステイホームの時間が増えた中、限られた楽しみの一つが、サッカー日本代表戦をテレビで観戦することです。

現在、ワールドカップ出場をかけたアジア最終予選の真っ只中であり、ホーム（日本）で行われた初戦のオマーン戦では、まさかの敗戦となりました。オリンピックでの日本代表チームは、強豪国のフランス、メキシコに勝利し、あのスペインとも交流試合で引き分けるなど、めざましい活躍を見せ、日本チームは変わった！と感じさせる内容でした。特に、久保建英選手や堂安律選手、田中碧選手、富安健洋選手などの若手選手の躍動は、目を見張るものがありました。それだけに、ワールドカップ予選での日本代表には、選手起用を含めて疑問を抱かずにはいられませんでした。なぜ、オリンピックで成果をだしたメンバー中心で戦わないのか・・・。

そんな中、大事な第二戦はアウェイ（カタール）で開催され、試合開始時間は日本時間の午前0時でした。当然、テレビでは放送されません。DAZN（ダゾーン）という動画配信サービスで放送されるということで、急遽契約してライブ配信で観戦しました。中国に1対0でなんとか勝利し、ひとまずはホッと胸をなでおろしました。

第三戦は強豪のサウジアラビアとのアウェイ（サウジアラビア）での対戦でした。試合開始時間は、日本時間の午前2時であり、さすがに平日の午前2時からライブ観戦するのはどうかと思われ、さらには、お気に入りの久保選手も怪我で出場できないと・・・。正直迷いましたが、負けられない一戦であり、試合前に仮眠をとって、ライブで観戦しました。しかし、結果は後半終了間近のまさかのバックパスからの失点による敗戦・・・。夜中に応援してのこの結果には、さすがにガックリと肩を落としました。また、いつもの日本代表に戻ってしまったのか・・・。

失意の中、ホームで開催された第四戦は、ワールドカップ予選11連勝中の強豪オーストラリアが相手でした。負ければ後がない一戦、固唾を呑んで見守る中、オリンピック世代が躍動し、2対1で勝利することができました。1点入るたびに、外に漏れるのではないかとこのご時勢、ここまで熱くなれることはなかなかありません。これからもサッカー日本代表を熱く応援していきたいと思います。

また、サッカーと言えば、地元の砺波高校（3部リーグ所属）が全国高等学校サッカー選手権大会予選で、強豪の不二越高校（1部リーグ所属）に勝利し、ベスト8に進出しました。すごいことです。また楽しみが一つ増えました。

不要不急がわからない

けやきひふ科

乗 杉 理

新型コロナウイルスの蔓延で、不要不急の外出を控えましょうと呼びかけられていた。いつまで要請されて、いつ要請されていないのか、もはや分からなくなったが、常に要請されていた気がする。もしかして、家人からずっと要請されていたのか？

そこで考えた。そもそも不要不急の定義とは、なんだろう？どの仕事も不要不急なのか？皮膚科の受診は、不要不急なのか？美容治療は、不要不急の仕事か？葬儀やお通夜の出席は不要不急？月忌のお参りは？自分は坊主の端くれなのだが、お寺の定例会はどうか？町の追悼会は？穏やかな家人に半ば強制されるゴミ出しや、犬の散歩は、必要不可欠の外出か？様々な疑問が湧いてくるが、誰もきちんとした定義を示してくれない。定義がわからない時は対義語を考えると明確になると、誰かが教えてくれた。では、不要不急の対義語は？不要の反対は、必要。不急の反対は火急、必要火急となるようだ。

話は飛ぶ。2020年の7月には、人生で初の、とある全国学会の座長に呼ばれていた。しかし、開催地は東京、リアル開催すること。東京の感染者は毎日それなりに出ている。座長のオンライン対応を問い合わせると、不可と言われる。泣く泣く出席を辞退した。無理を押しつけて座長を務めるべきだったか？同じセッションの座長は、私を含めて三人だった。ほかのお二人は開催地の方々。そのセッションは、オンラインで拝聴させていただいた。二度とないかも知れない座長招聘、辞退の後悔が募る。2021年も、リアル開催された、同学会、座長のお声はかからず。だけど、今年はオンライン座長がチラリホラリ。学会座長の務めは必要火急であったと理解。ちなみに、その学会とは、日本美容皮膚科学会である。

さらに話は飛ぶが、2021年6月、新型コロナウイルスワクチンの2回目接種翌日は休診にした。スタッフ思いである自分を褒め、学会以外の平日休暇を満喫、ガラガラの日帰り温泉で入浴していた。必要火急の行動であった。自分以外のスタッフは副反応で苦しんでいたらしい。自分の英断と行動を誇りに思っただけで家人に同意を求めると無視された。その休診から1週間後、重症の带状疱疹症例と出会う。約1週間前に他院で薬剤処方を受けている。処方薬をみると古典的抗ウイルス薬が処方されている。大人の事情があったと推察。その患者さん、X氏には原疾患あり、免疫抑制がかかっている。抗ウイルス薬内服開始1週間の経過にしては多数の水疱とビランと潰瘍が残存。X氏は知的レベルが高く多数の受診経験がある。医学的知識も自ずと豊富。原疾患の辛さと、今回の带状疱疹の辛さを切々と訴えられる。し

かも早口で話が長い。もしも口喧嘩をしたら、自分が必ず負けるタイプ。前医に相談しなかったのかと問うと、電話したが請け合ってもらえずとのこと。何となく察するところもあるが、種々の疑問を感じずにはおれず。過去の受診経験から医師に対する目も厳しい。医師の対応を採点する医師ソムリエのようだ。前医の施設スタッフは、X氏の言動に辟易したのか医師への付度が働いたのか、再診を食い止めた？氏の訴えを一つ一つ受け止め、丁寧すぎるほどに説明、処方薬の理解を得て初診は終了。再診時、X氏は、緩徐に改善、疼痛も潰瘍も持続していたが、とても感謝された。当院が不要の施設でもなかったように思い少し自信を取り戻す。数々の医療を経験したX氏の信頼を得たようで誇らしい。その後も、氏は帯状疱疹後神経痛で通院中である。氏の難しい訴えに対し処方した和漢薬もマッチした。受診のたびに、お褒めいただき、ちょっと嬉しい。氏と話し出すと、自ずと聞き役にまわり、こちらの提案に至るまでは、それなりの時間が必要である。また、鎮痛薬内服の経験が多く、こだわりも強く、こちらの提案に同意をいただくには時間がかかる。会話を盛り上げるつもりは無いのだが、場を和らげるためにした世間話で予想以上に盛り上がる。ある時X氏が診察室に入ると、診察室からスタッフが消えることに気づいた。とても自然に別室に移動し、ガーゼを畳んだり器具の消毒のため別室へと移動していくのだ。もちろん会話は聞いてくれるだろう。邪魔しないように奥ゆかしくしてくれているに違いない。診療補助より必要火急の仕事が出来たのかも。氏に、こちらの提案をするときこそ、スタッフには、後方で相槌を打ってもらいたい。だが、振り返っても、誰もいない。院長の必要は、スタッフには、不要のようだ。

誰か不用不急の定義をはっきりさせて欲しい。それこそが必要火急に違いない。どなたかお願いします。



はじめての海釣り

市立砺波総合病院 脳神経外科

濱 田 秀 雄

砺波でお世話になり早いもので8年になります。もともと無趣味で、楽しみと言えばサッカーを観戦することぐらいでした。子供たちが小さい頃は週末にはたびたび応援に行っていました。しかし3人の兄に習ってサッカーを始めた一番下の娘もついに高校3年生になりいよいよサッカー応援も終わりを迎え、これから何か趣味を見つけなければと思っていたところでした。

9月のとある日曜日に次男から釣りに行かないかと誘われました。次男も釣りの経験はほとんどありませんでしたが、最近高校時代の友人から誘われて釣りを始めその面白さにはまったようでした。次男といっしょに釣り具店に行って手頃な価格の竿、リール、針、餌など一式を購入しそのまま岩瀬港に行ってみました。風が強かったですが晴れて天気は良く、コロナ渦とは思えぬほど港には沢山の釣り人が集まっていました。

私は海無しの長野県出身で、小学生の頃に数える程度の川釣りや諏訪湖のわかさぎ釣りの経験はありましたが、実際に海で釣りをするのは初めてでした。

次男にならって釣り糸をたれました。しばらくは静かに時間がながれ「簡単に釣れる訳ないよな」と心の中では思っていたのですが、その後なんと小アジが次々とかかるではないですか。2時間程度で30匹近くの小アジを釣ることが出来ました。家に帰り新鮮な小アジのフライをつまみにして日本酒を痛飲してしまいました。

次男は最近アオリイカを狙って県内様々な漁場に行っていますが、残念ながらまだヒットしていないようです。私はその後釣りに行く機会がありませんが、当院の諸先輩方のご指導を仰ぎ次は大物をと密かに企んでおります。



喰らいつけ。富山グラウジーズ！

市立砺波総合病院 内科

早 川 哲 雄

昨年息子からバスケの試合に誘われた。音楽とダンスの中、審判・相手チーム・グラウジーズ紹介と続き go! go! グ라우ジーズの掛け声で最高に盛り上がったところでTIPOFF。オフェンス・ディフェンスコールに合わせハリセンを叩き、選手のプレーに一喜一憂する。試合終了後はコーチと選手のインタビュー。バスケって一大エンターテイメントだなと思いそれからバスケにハマっていった。バスケは知的な部分と格闘的な部分が混在しているスポーツだと思う。ファウルや時間を有効に使うのが勝敗のカギになる。パスも普通のパス、バウンドさせ下を通すパス、ふわりと浮かせて上を通すパスなど様々でパスが綺麗に通ってゴールが決まるとスカッとする。3ポイントシュートは滞空時間が長く入ったら盛り上がる。プレイヤーどうしがすごいスピードでぶつかるから人が吹っ飛び骨折する。そして何より今年のグラウジーズは強かった。チャンピオンシップ進出を果たした。Bリーグベスト5にも選ばれた何でもできるマブंगा、ゴール下の巨人スミス、シューター橋本、岡田、前田、松脇。しかし、バスケの世界は移籍が当たり前らしく、今年シューターを含む5人が移籍した。替わって元NBAのジョンソン、フィリピン代表のラモス、シューターの松井、晴山などが加入した。開幕後、信州戦、東京戦、名古屋戦とまさかの6連敗。戦力的には昨年より上だと思うがパスミスなど連携がうまくいかない。第7・8戦の琉球戦。これも負けたけど連携がよくなりみんな調子を上げてきた。そして第9戦の大阪戦。今年初めて勝った。これからも喰らいつけ。富山グラウジーズ！しびれる試合をしてほしい。



新型コロナ禍の脳筋エクセサイズ

産業医（砺波労働衛生コンサル）

比 嘉 敏 明

新型コロナ禍が広がる直前、2年にわたる東京での日本スポーツ協会公認スポーツドクター講習会受講を終了しました。Tシャツ1枚が与えられる東京オリンピックボランティア医療参加希望者が少なくないのが驚きでした。地球温暖化、気候変動顕在化もあり、スポーツ大会は下火となりました。私は高齢者の安全・健康スポーツを追及するようになりました。

歳を重ね体力や認知機能が低下するところ、毎日のように頻回に運動すると脳の神経細胞新生が促され認知機能維持に役立つようです。疲労困憊する長時間運動よりも、週5日と頻度を増やし散歩を楽しむことにしました。

筋の方は砺波平野南東にある標高1000メートルの山嶺を結ぶ夏でも涼しい古道を散歩します。標高700メートルの八乙女山駐車場まで車可、そこから標高900メートルの扇山登山口まで自転車可、扇山登山口から脚力を補い、握力強化となるノルディックポール登山、帰りは止まらずに動きながらのアクションカメラやスマホで撮影しながらの脳刺激トレイルランとなります。平地で35度でも標高1000メートルのブナ林は28度以下で熱中症の恐れは小さくなります。電動アシスト自転車なら日向でも頑張りすぎて熱中症になることはありません。山に行かない日はチューリップ公園や花総合公園を散歩（ジョギング）します。並行して脳の方は紀元2000年以前の漢文の古語を覚えるようにし、毎月1回古代中国語教室で、「詩経」「史記」「漢書」などの教材を60分以上朗読し普通話ピンイン発音を確認してもらいます。

以上、脳筋（nǎo jīn）エクセサイズを心掛けるようになりました。



「新型コロナウイルス感染第5波収束か？」

ひがしでクリニック

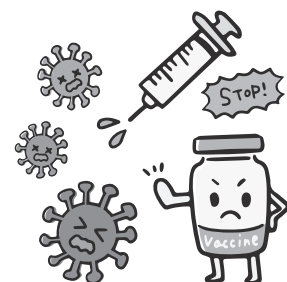
東 出 慎 治

昨年3月11日にWHOがCOVID-19の流行についてパンデミック宣言をし、新型コロナウイルスとの戦いが始まりました。富山県は最後の5県まで粘りましたが、志村けんさんが亡くなった3月30日に第1例が出て、一気に緊張感が走ったのを覚えています。砺波市のコロナ第1例は11月22日だったので、富山県内でもかなり遅かったと思います。

ところで当院では午前午後の診察の最後に発熱患者さんを診ていましたが、今年の7月16日までコロナの第1例は出ませんでした。前日15日の最後に診察した女性患者が、その後夜間救急を受診しPCR検査で陽性と診断されたと総合病院の救急から連絡を受け、直後に2人の発熱患者さんがともに抗原検査で陽性となり、総合病院に入院となりました。3人連続で出たので厚生センターの担当者からPCR検査を勧められ3日後に受けさせてもらいましたが、陰性と聞くまではドキドキしました。PCR検査は濃厚接触者の枠？で無料でしたが、自費だと2万円以上します。当院でも自費で検査を希望した人が10人くらいいましたが全員陰性でした。外注だと結果が出るのに1日弱かかるので、抗原検査をして陽性なら病院でPCR検査という流れが一般的だと思います。ちなみに抗原検査強陽性でPCR検査が陰性だった人もいました。

富山県で1日147人の新規感染者が出た8月19日が、全国的にも第5波のピークでしたが、ここにきて一気に収束してきました。その理由として3つの要因が考えられるそうです。まずワクチン接種が進んだことで7割以上の人が2回接種済みです。次に、個人の行動変容が起こったこと。そして最近クローズアップされているのが、第5波の感染拡大の大きな原因となったデルタ株でゲノム（全遺伝情報）の変異を修復する酵素が変化し働きが落ちたためという「ウイルス自壊説」です。

11月1日以来富山県内での新規感染者は出ていません（11月9日現在）が、新たな変異株の出現により12月頃に第6波が来るという予測もあり、インフルエンザの流行の有無とともに、今後も自粛が必要の様です。



砺波のへき地医療

市立砺波総合病院 内科

深 谷 良

へき地というと人里離れた山奥や離れ小島などを想像します。しかし国の医療計画で指定されるへき地とは医療機関までのアクセスが良くない地域のことです。砺波地区では井栗谷や五谷が相当します。実際には砺波総合病院から車で30分足らずの場所です。私は砺波総合病院でへき地医療の担当をしており週2回程度看護師、事務員との3人チームで医療を行っています。診療の場所は地元の集会所やかつての小学校の校舎だったりです。大雪のときは車によるアクセスも大変ですが建物の玄関にたどり着くためにラッセルして道をつけることもあります。しかし病院の日常から離れておいしい空気を味わえる貴重な時間でもあります。診療を通した山の人たちとの交流も大きな楽しみです。殆どの方が後期高齢者ですが農業を続けています。山で生まれ育った人ならではの明るさ、たくましさを持っています。

しかしながら高齢化だけではなく過疎化も進んでいるのが現実で、集落には廃屋が目立ちます。例えば去年まで元気に稲作をしていた90代の二人暮らしの夫婦の場合、今年になって夫が体調不良となりあっという間に療養型病院に入院となりました。残された妻も入居先を探すことになります。そして空き家が残ります。

数年先にはいったい何家族、何人がこの地域に残るのかと思うと、先細りの見通ししか持てないのが現実です。かくいう私自身も既に高齢者となっていますが、受診してくれる人がいる限りへき地に通うつもりです。今日もへき地が呼んでいます。へき地バンザイ。



父を亡くして

砺波サナトリウム福井病院

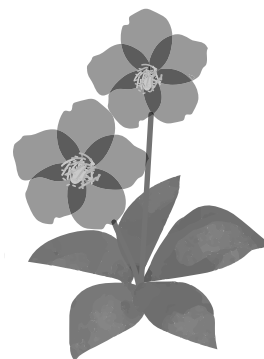
福 井 靖 人

左足の付け根に腫瘤ができたから診てもらってくると言ったのが、昨年6月の半ばでした。それ以前から歩きにくさを感じていたようですが、家族には内緒にしていました。ひ孫の誕生で背中を押されたようです。

横紋筋肉腫と砺波総合病院で診断されましたが、主治医であった稲邑先生から厚生連高岡病院の腫瘍内科を紹介されました。そこでも同様の診断で、もうすでに肺にも転移が認められていました。抗がん剤治療を受けましたが、病気の進行を食い止めるには至りませんでした。徐々に衰弱して、同院の緩和ケア病棟でお世話になることになりました。亡くなる前日も手を振って元気そうに見送ってくれたので、翌朝病院から“寂しがっておられるので”との連絡を受けた時には、よもや意識がないとは思いませんでした。診療を終えてから母親と駆け付けると意識がなく、主治医から今夜が山と言われてびっくりしました。これが永遠の別れになるとわかっていたら、昨日もっと話をしたのに。これまでの感謝を伝えなかったし、言いたいこともあったのではなかったか。最期は、静かに眠るようでした。

父の死後、山積みされたいろいろな仕事を片付けているうちに、あっという間に1年が過ぎました。振り返れば、父は幸せ者であったと思います。開業以来、地域の皆様に支えられ、病院のスタッフと共に患者さんに囲まれるようにして、入院直前まで仕事を続けることができましたし、成長した孫たちとお酒を楽しんだり、ひ孫の顔も見ることができました。

今までお世話になり父を支えてくださった皆様に、父に代わってお礼を申し上げます。そして、これからもどうぞよろしくお願いいたします。



新入会員紹介

市立砺波総合病院 研修医

佐 藤 健太郎

初めまして。この度砺波医師会に入会させていただきました、市立砺波総合病院研修医 2 年目の佐藤健太郎と申します。

砺波総合病院で生まれてから出町幼稚園・小・中学校、砺波高校まで砺波市で過ごしましたので、お世話になった地元の医師会に入会が叶いましたこと、大変嬉しく思います。出身大学は岡山県の川崎医科大学です。富山県から 6 年間離れておりましたが、今後は医師として地元である砺波市に少しでも貢献できるよう精進する所存です。至らぬ点が多く先生方にはご迷惑をかける事が多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



砺波医師会誌 第 215 号

編集後記

第 215 号の杏和だよりとなりました。今回もたくさんの投稿ありがとうございました。

富山マラソンは、去年は大会中止、今回は 11 / 7 に縮小して行われる予定です。(発刊時には終わっています) 大会縮小といっても 1 万人は集まるため密になるので今回は出場を見送りました。これで 5 回連続出場は途切れます。

昨年からコロナのため他の大会も無くなり、目標がないため練習なくなってしまい日頃体を動かすことがめっきり減りました。来年は気力と体力が戻れば出場したいと思います。

最近のコロナの動向は、新規感染者が東京 16 人 富山 1 人 (10 / 24) と着実に減り、コロナワクチンの 2 回接種率も 70% を越えてきました。

世界を見ると抗体価の低下か変異株のためか第 6 波が起こっており、今後の予想は難しいですが準備は必要です。これからコロナワクチンの 3 回目の接種が始まるでしょう。接種の時はまた皆様のご協力お願いします。

杏和会の飲み会もなく皆様のお顔を見ること無く寂しいのですが、きっと春頃には杏和会を開催できるのでは？ 楽しみにしています。

津 田 博 記

〔広報委員〕 豊田 葉子、津田 博、山田 泰士